

共済金支払データに基づく 農作業事故の発生状況の分析について

令和4年4月
全国共済農業協同組合連合会

はじめに

農業における死亡事故の発生率は、他の産業に比べて高水準で推移しており、危険業種と言われる建設業を大きく上回る発生率となっています。

死亡以外の事故も多くあるものと推測されますが、農作業のように小さな母集団では、災害の発生確率に関する豊富な統計データはないに等しい状態と言われ、死亡以外の災害を含めた農作業事故のリスクを体系的に捉えることが難しい現状がありました。

こうした状況を踏まえ、本分析では、JA共済がこれまで農家・組合員への保障提供の活動を通じて蓄積した農作業事故の共済金の支払データを分析し、農作業事故の発生状況を明らかにすることを試みました。

分析にあたっては、過去の同目的の分析・研究結果を参考にしつつも、新たなアプローチとして「リスクマップ」の手法（リスクを「発生頻度」と「損害の程度」を2軸とした2次元のグラフに示す手法）を用いて、各所でリスクの「見える化」を試みたことが特徴的と言えます。

分析結果から、公表されている死亡事故はまさに「氷山の一角」であり、全国で数多くの農作業事故が発生している実態が明らかとなりました。

今回の分析は、前回分析から4年経過したことを踏まえ、直近の農作業事故の実情を明らかにするだけでなく、4年間の期間経過による農作業事故の状況変化についても分析を行っております。

本分析が、農作業事故のリスクの体系的理解に少しでも役に立てば幸いです。

最後になりますが、分析にあたって、多数の有益で示唆に富んだ助言をいただいた関係機関の皆様に感謝を申し上げます。

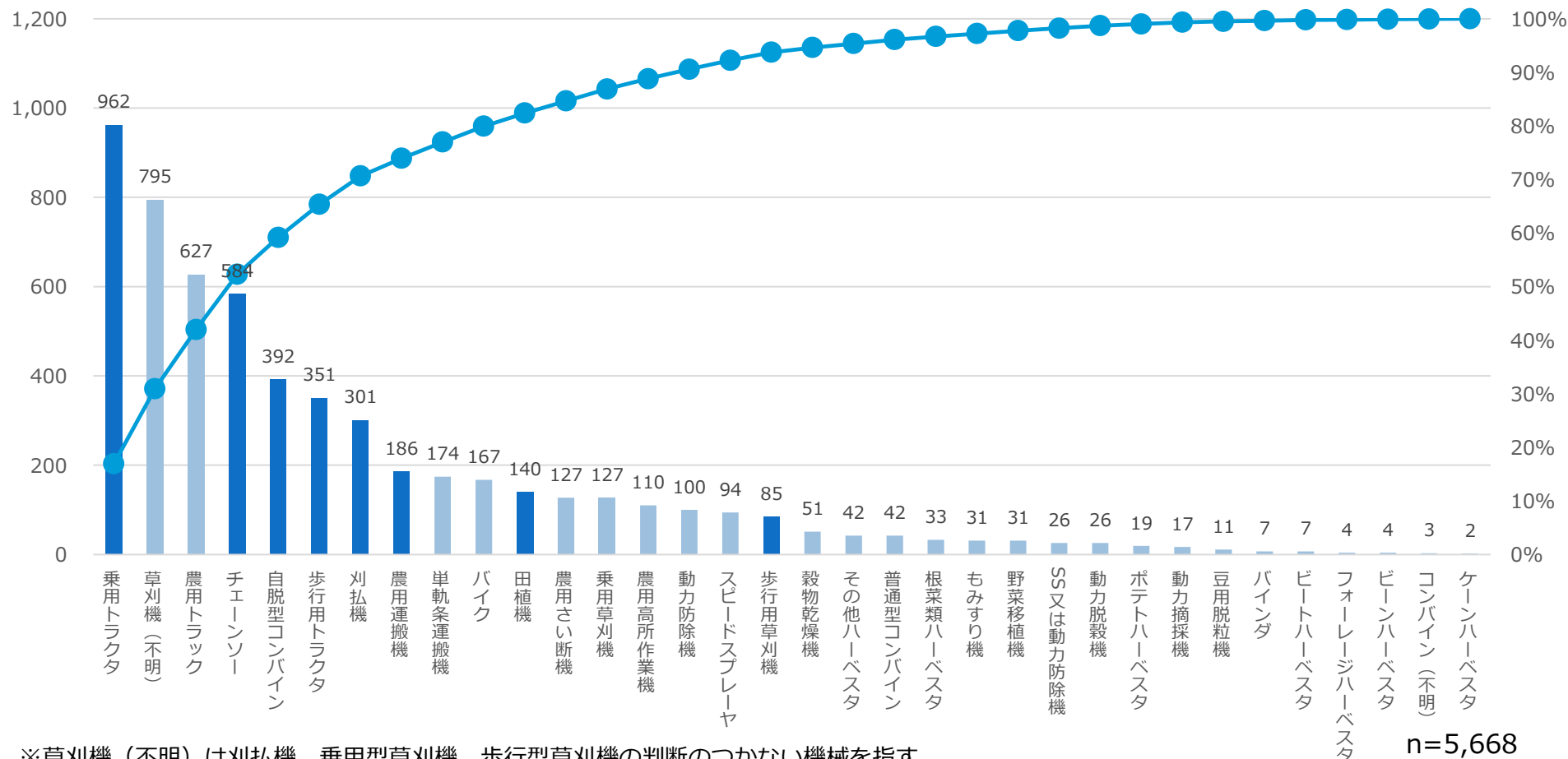
令和4年4月 全国共済農業協同組合連合会

(2) 農機 (①「農機」別の発生件数)

分析結果 (詳細)

最も件数が多い農機は「乗用トラクタ」であり、「草刈機 (不明) ※」、「農用トラック」、「チェーンソー」、「自脱型コンバイン」の順に続く。

主要農機 8 種類 (2893件) で全発生件数の51%を占める。



※草刈機 (不明) は刈払機、乗用型草刈機、歩行型草刈機の判断のつかない機械を指す

n=5,668
(不明・その他を除く)